

## 成人を迎えて

18歳を過ぎた私の長男は、今年の春から障害者作業所に通所しています。障害名は、生まれつき重度の知的障害を伴う自閉症です。

4月に新生活がスタートしましたが、支援学校を卒業した前年度からの変わり目が一番不安な日々でした。慣れない生活リズムについていけるかどうか...始まるまでの不安と緊張で落ち着かない日々。実は、息子よりも母親である私の方が不安なことに気がつきました。いざ、明けてしまえば大丈夫であったように、息子には順応性があり大変立派だと思いました。同時にそれは、受け入れてくださる施設側の対応も素晴らしかったのです。

作業所の中では一番若く、大人のなかま入りをした息子の姿が、私には急に可愛く思えました。1ヶ月間、一日も休まず元気に通所し、翌月にいただいてきた初任給。そのお給料はお小遣い程度ではありますが、受け取った瞬間その現金の重みを感じ、初めて湧いてくる感情で胸がいっぱいになりました。有難く頂戴した毎月のお給料は、息子の好きな物に使おうと決めています。

子どもの成長を通して、私たち家族はこれまで何度も節目を迎えてきました。そのたびに感じる思いも様々ですが、これまでに子どもを通じて得た人との出会い、そして繋がりや奇跡が、なによりの財産になっています。

この18年間を振り返ってみると、激動の通園施設での3年を経て、支援学校小学

部入学から中学部へ。そして高等部卒業までの12年間は、こんなにも早く過ぎ去るとは想像もつきませんでした。出来ることが増えれば喜び、また後退したり、ゆっくり前へ進んだりの繰り返しです。その過程で、知り合った先生方や先輩保護者さんが仰っていた言葉に、今となっては共感できる部分がたくさんあります。障害の状態や程度は違えど、通過する道に通じるものも多くありました。

子どもが学童期の間は、放課後等デイサービスなどの福祉サービスがとても充実していましたが、大人になるとそうではなくなります。その変化を受け入れることができるかどうかの不安や葛藤もありましたが、今では現実を受け入れ、再び子どもと向き合うための時間ができたのだと思っています。これから先、子どもの長い人生の中で、何が起きるかわからないながらも、明るい未来を想像し、希望を持ち続けていきます。このような根拠のない自信と前向きな気持ちは、息子と、これまで関わっていただいたすべての方からの贈り物です。

そして終活。まさか私自身が40歳代で終活するとは、思いもよりませんでした。きっかけは18歳で成人になるという法改訂でした。いつかは成人となり、一人の大人としての責任が生まれるのだと、ぼんやり考えてはいましたが、あっというまに目の前に迫っていました。後見人制度ってどういうもの？息子は、はっきりと意思表示することが難しいのでは？親権があるうちに親が出来ることは？など、急に私のやる気スイッチが入り、今できることをメモに書き出しました。任意後見契約や遺言書の

作成を、自力で進めていくにはあまりにも複雑な手続きでしたので、専門家の力を借りて手続きを行うことにしました。この一件で、人生とはなにか？これからどう生きていきたいのか？など自分の気持ちと向き合い、両親と夫婦お互いの意思表示も確認できたことが、何よりよかったと思います。

とりあえずという気持ちから始めた終活は、実際やってみると結果的に良いことばかりでした。終活を通して気づいたことや、今まで考えもしなかったこと、自分の本当の気持ちや家族の思いなど...終活はとても明るいものでした。

また、余計な思考も捨てちゃえと思うようになり、過ぎ去ったことや起きてもない未来のことを考え過ぎるのはやめました。こうなりたいというイメージを持ちつつ、それに向かって日々行動し、何事にも一生懸命、今を楽しみながら生きようという気持ちでいます。

そんな中、突然やってきた親の介護問題。コロナ禍もあって、突然気分が落ち込み心身が不調になった実母。それまでは私も母を頼っていたため、はっとさせられました。親がいつまでも元気で当たり前ではないことに気づき、そして私自身にも同じことが言えます。はじめは、以前のように元気になってもらいたいと願ってアプローチしていましたが、時間が経つにつれ、そう思うことを手放してみました。以前のように元気に！ではなくていい。今、家族の協力があって生活できているのなら、もうそれで充分ではないのかと思うようになりました。

コロナも以前よりは落ち着き、数年ぶりに友人と会う機会も増えてきました。誰にでも言えることかもしれませんが、すべて順調にいかない時もあります。私にはそれが、与えられた試練のように感じ、それならば今何ができるかを考えるようになりました。たとえ失敗しても、また別の方法を見つければいい。やりながら見えてくることもあるので、その都度試行錯誤していこう。仕方がないことも一旦は受け入れる。そうすれば、きっとその先は大丈夫なのだと思います。

もしも、思いもよらないことが起きた時や、良いことやそうでないことが起きても、どちらであってもいいのではないかと思います。変化を受け入れ、上手くいかなければまた考える。決して諦めないで、すべての物事は自分の行動で変わると心から信じています。